

# 2026年度オープン大学院 シンポジウム

「学際的な学び」について考える



# シンポジウムテーマ

1. 内なる国際化（外国人労働者問題）の解決に向けて日本語教育が重要な鍵に
2. 福祉・高齢者介護の現場で求められるコミュニケーションを実現するにはどうしたらよいか
3. 変化する国際情勢の中で、日本・日本人に求められていることを再認識する

# 参加者紹介

| 名前     | 所属   | 年度   |       |
|--------|------|------|-------|
| 陸 亦群   | 国際情報 | 研究科長 | 対面    |
| 島田 めぐみ | 文化情報 | 教員   | 対面    |
| 北村 世都  | 人間科学 | 教員   | 対面    |
|        |      |      |       |
| 堤 悠香   | 文化情報 | M 1  | オンライン |
| 羽野 美佳  | 文化情報 | 修了生  | オンライン |
| 永富 聡   | 文化情報 | D 1  | 対面    |
| コー理恵   | 国際情報 | D 1  | オンライン |

| 名前     | 所属   | 年度  |       |
|--------|------|-----|-------|
| 小林 雅津良 | 人間科学 | D 1 | 対面    |
| 関根 正良  | 人間科学 | M 1 | 対面    |
| 春日 郁代  | 国際情報 | M 2 | 対面    |
|        |      |     |       |
| 岡 豊樹   | 国際情報 | 修了生 | 対面    |
| 上林 彰仁  | 文化情報 | 修了生 | オンライン |
| 野口 哲也  | 国際情報 | 修了生 | 対面    |
|        |      |     |       |
| 加藤 孝治  | 国際情報 | 教員  | 対面    |

# 新たな研究科の目指す姿

## (陸亦群研究科長)

- 研究科をどのように改組するか
- なぜ、改組するか
- 改組することによって、大学院の学びはどう変わるか
- 今日のシンポジウムに期待すること



# 2026オープン大学院 シンポジウム セクションI

テーマI

日本語教育が置かれている現状

国内

人口減少



外国人材の  
確保



多文化共生



来日前教育

海外

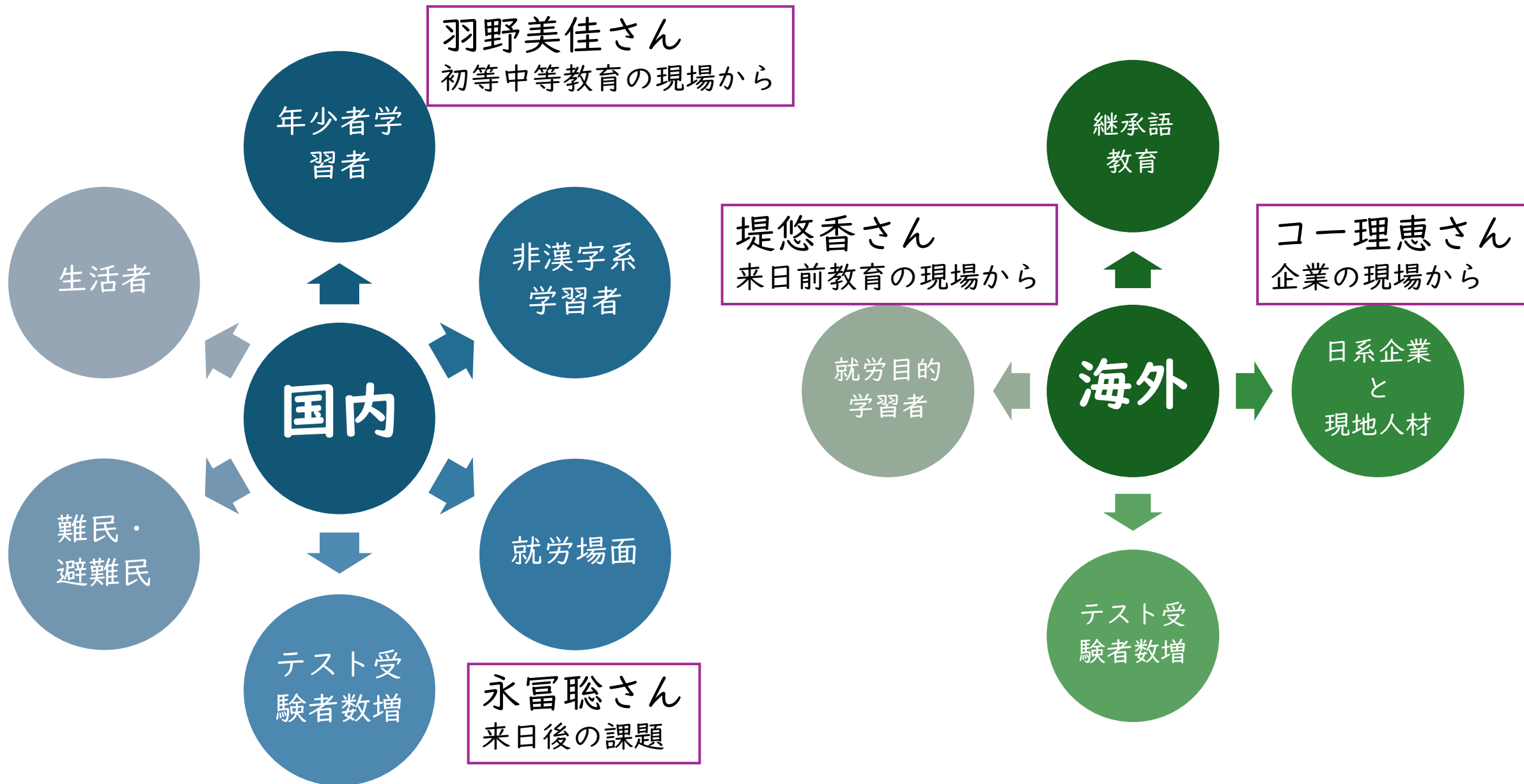
グローバル化



日系企業の  
海外進出



異文化間コミュ  
ニケーション



# 就労予定の外国人材に対する来日前日本語教育で何が求められているか

## 技能実習生の来日

### 🌐 海外（送出国）

#### ✈️ 送出国機関

- ・ 候補者の募集・選考面接
- ・ 160時間以上の入国前講習(日本語・技能)

↓ 教育・面接・手続き

#### 👤 技能実習生 候補者

入国前講習を受け、実習計画の認定を経て日本へ渡航

渡航  
→

雇用契約

### 🇯🇵 日本

#### 📋 監理団体（非営利）

- ・ 入国後講習（約1ヶ月）の実施
- ・ 受入企業の指導・定期監査
- ・ 実習生の保護と相談対応

企業を指導・実習生を監理

#### 🏢 受け入れ企業（実習実施者）

- ・ 雇用契約に基づき実習（OJT）
- ・ 実習指導員・生活指導員の配置
- ・ 技能検定合格に向けた指導

実習生を直接雇用・現場指導

📌 制度的特徴：国際貢献と技能移転が目的。原則転籍不可。入国後に約1ヶ月間の講習（日本語・法的保護等）が義務付けられている。

# 就労予定の外国人材に対する来日前日本語教育で何が求められているか

## 特定技能の来日

### 🌐 海外（送出国）

#### 👤 現地試験・送出機関

- ・技能評価試験 & 日本語試験（N4/A2以上）
- ・面接選考・渡航手続支援

↓ 試験合格・採用契約

#### 👤 特定技能外国人人材

試験に合格し、特定の技能と基本的な日本語力を有し来日

渡航



直接雇用契約

### 🇯🇵 日本

#### 👤 登録支援機関

- ・受入企業から**支援業務を委託**
- ・生活オリエンテーション・送迎
- ・行政手続支援・相談窓口の運営

支援計画の委託受託・生活支援

#### 🏢 受け入れ企業（雇用主）

- ・日本人と同等以上の報酬・**直接雇用**
- ・1号特定技能支援計画の実施義務
- ・現場での即戦力就労と定着支援

支援義務・現場就労

📌 制度的特徴：即戦力としての就労が目的。同一産業分野内での転職（転籍）が可能で、生活・就労面での10項目の義務支援が存在。

# 就労予定の外国人材に対する来日前日本語教育で何が求められているか

## 受け入れ企業・監理団体・登録支援機関から期待されること

### 01

安全管理や現場の行動  
習慣に直結する言葉の  
理解

- ・ 現場で使用される専門用語
- ・ 道具の名前
- ・ 5S
- ・ (特定技能)作業手順や説明への理解のはやさ

### 02

正確さ<すぐに自分から話す

- ・ わからない時にわからない  
  ということができる
- ・ 問題をすぐに報告ができる

### 03

来日後も学習を続ける力・  
マインド

- ・ 新しい仕事・慣れない文化  
  を積極的に学ぶ姿勢
- ・ (技能実習)技能検定試験基  
  礎級

# 外国人労働者・避難民の子どもたちへの日本語教育で何が求められているか（国内）

## 01 学力保障

(サバイバル日本語・技能別日本語...の後)  
「話せる」だけでは、学べるとは限らない

- ・ 教科学習に必要な日本語
  - ⇒授業への参加
  - ⇒進学・進路につながる学び

## 02 多文化共生の下地づくり

「日本に合わせる」だけの教育にしない

- ・ 母語、文化、経験を「強み」に
  - ⇒違いを認め合う学校
  - ⇒ともに学び、共に生きる力
- ・ 一人一人の背景への配慮
  - ⇒避難してきたCLD児へ「戦争」を題材にした国語教材を扱う時

84,759人

日本語教育が必要な公立学校の  
児童生徒数(2025年度過去最高)

文科省:日常会話ができて、学年相当の「学習言語能力」が不足し、学習活動に支障が生じるCLD児童生徒も日本語指導の対象

日本語教育は、子どもの未来と、共に生きる社会をつくる教育



# 入国後の日本語教育と 在留資格に関わる日本語試験の課題

技能実習  
技能移転による国際貢献

→ 育成就労  
人手不足分野の人材育成・確保／3年間で特定技能1号水準へ

2027年4月1日施行 → 経過措置 → 2030年頃を目途に制度移行

## 01 入国後講習

### 学習歴・到達度に差

ベトナム中心から  
インドネシア急増・他国も増加傾向

就労開始まで

A1以上の試験合格／相当講習

3年間の育成終了時

原則 A2 (A2.2) 以上

A2=A2.2...  
JFT Basic 200点

## 02 配属後・在留資格

### 転籍・移行に日本語要件

本人意向の転籍（育成就労）

原則 A2.1以上の試験合格  
＋就労期間・技能等の条件

A2.1...  
JFT Basic 175点以上

特定技能の日本語要件（新制度）

1号 原則 A2以上  
2号 B1以上

## 03 日本語試験

### JFT-Basic

2026年8月からA1・A2.1も判定  
A1～A2を判定／B1は対象外

### JLPT（日本語能力試験）

2025年12月からCEFR参考表示  
会場確保が困難 → 2回連続で申込早期終了

2026年7月：N3・N4のみ  
2026年12月：全レベル

※日本語要件は新制度の概要。分野・移行経路・経過措置で異なり、日本語試験以外の要件もある。

年2回の国内JLPT。受験枠の拡充・他試験の活用と、評価の信頼性などの課題

留学のA2証明に使える試験：JLCT（JCT4以上）・JPET（日本語能力評価試験）もあるが、技能実習・特定技能においてはJFT Basic / JLPTのみ。

シンガポールの日系企業・人事の現場から

# 「日本が好き」は、 現地の人材と日系企業をつなぐ入口

## 職場で出会う「日本好き」の人たち



すでに自分で勉強している



これから学んでみたい



言葉はまだ。でも日本が好き

## 社内で日本語の機会をつくってきた

挨拶・ひらがなから。あわせて日本の文化や働き方も紹介

## でも、スタート地点は人それぞれ

漢字になじみのある中国語圏の人と、フィリピン・インドネシア・欧米など非漢字圏の人では、負担はまったく違う



人材獲得競争が激しいシンガポールでは、「日系企業だから」で選ばれる時代ではない。  
だからこそ、日本に関心を持ってくれる人との接点は、企業にとってとても貴重。

企業の現場から、日本語教育に期待すること

# むずかしいのは「学ぶこと」より 「続けること」



## 時間

時間外にすると、関心があっても参加者が減る



## 難しさ

漢字圏か非漢字圏かで、学習の負担が大きく違う



## 継続

研修期間が終わると、学びが途切れやすい



## こんな学びがあれば…

- 短い時間で、レベル別に
- 職場ですぐ使える
- 文化の理解とセットで
- 「使えた！」を実感できる
- 企業も続けやすい仕組み



日本語教育は、ことばの教育にとどまらず、  
外国人材と日本・日本企業をつなぐ「架け橋」になり得る。



# 2026オープン大学院 シンポジウム セクション2

テーマ2

高齢社会をどう乗り切るか

# 2040

現役世代急減する年

# 440万

2022年認知症患者数

# 559万

2022年輕度認知障害者数

# 1.6

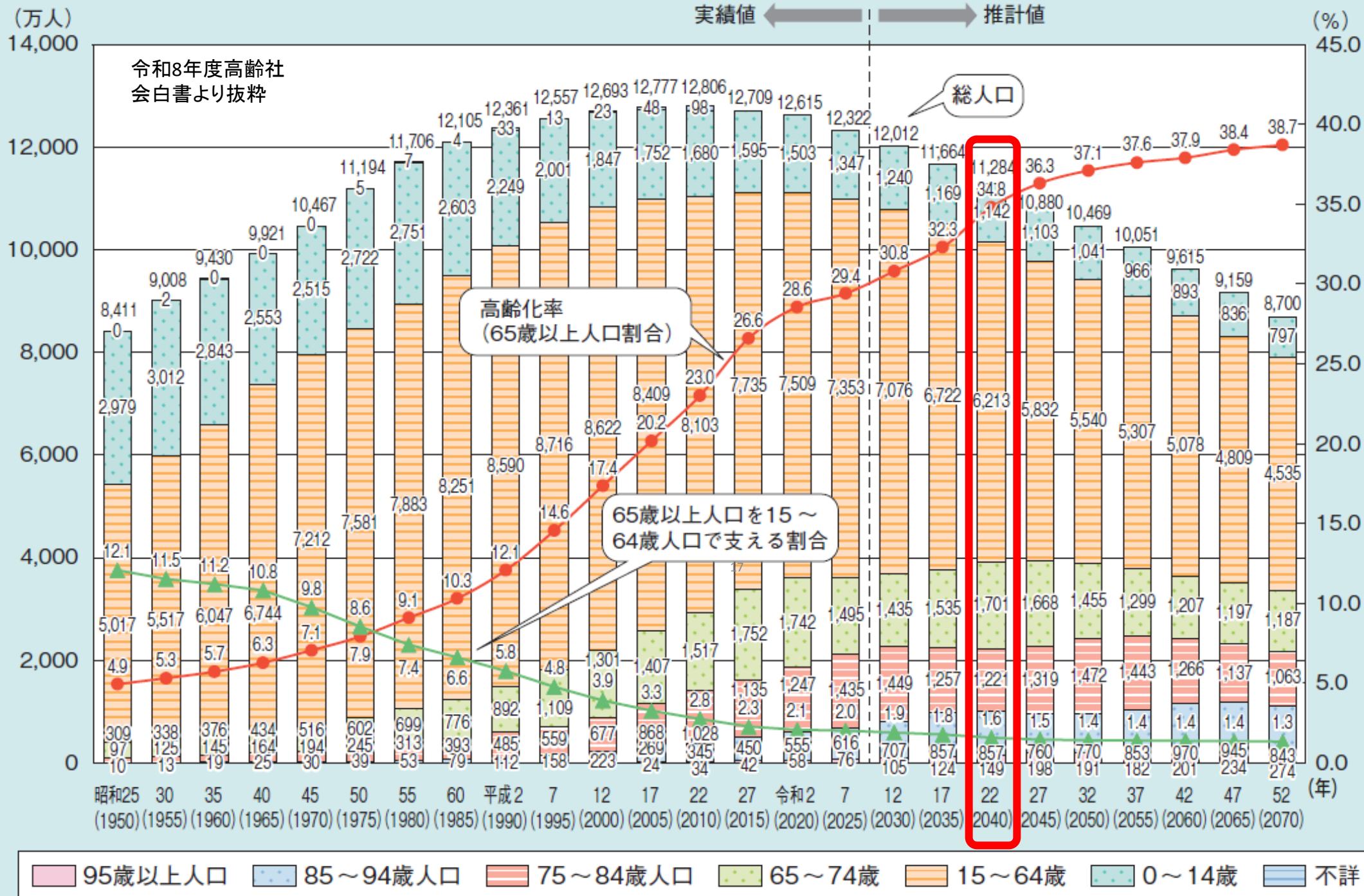
2040年労働者1人が支える高齢者数

# 29.6

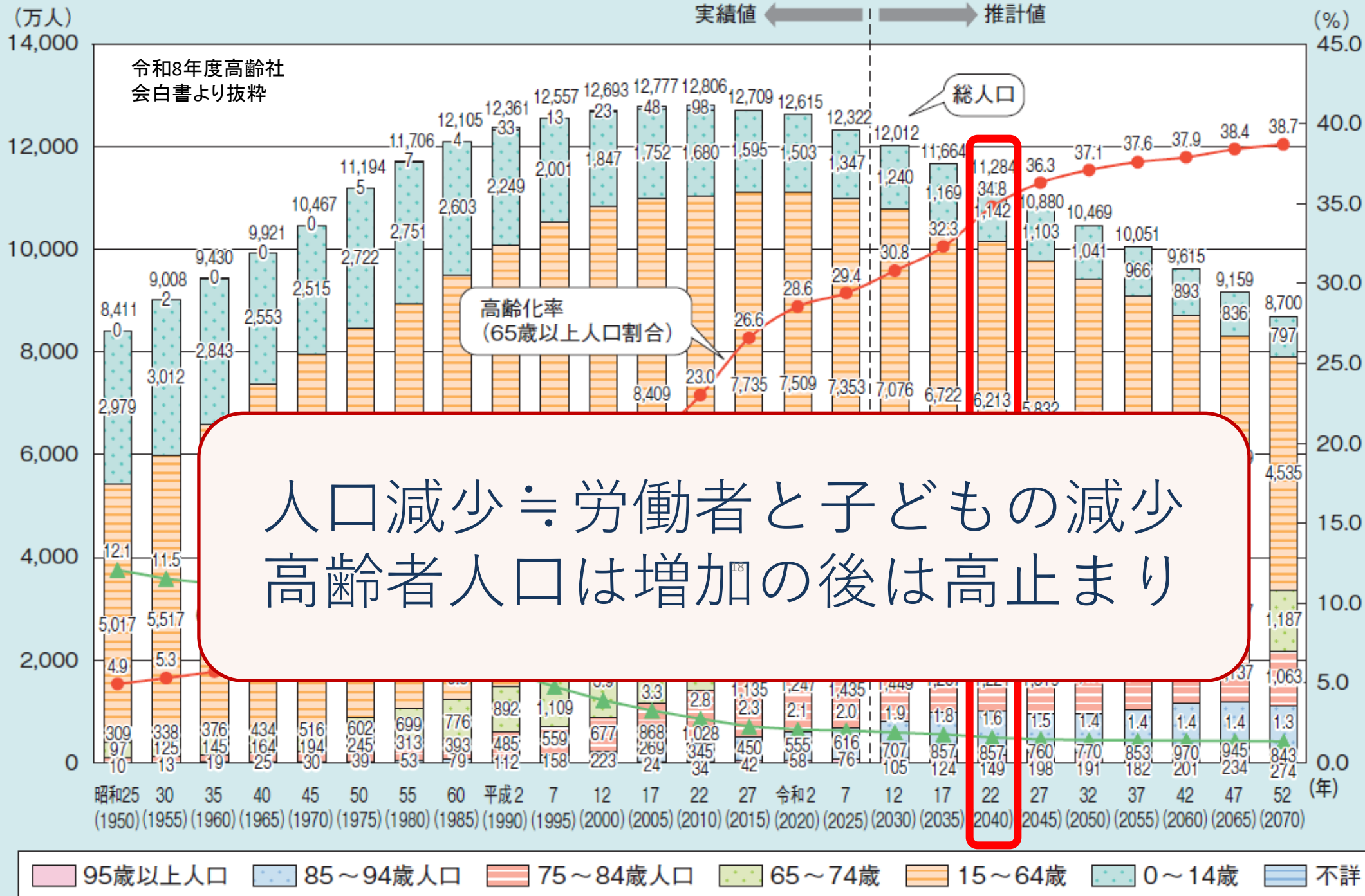
2026年9月推計の高齢化率

# 1億2268万

2026年8月の日本の総人口



人口の推移からみた課題



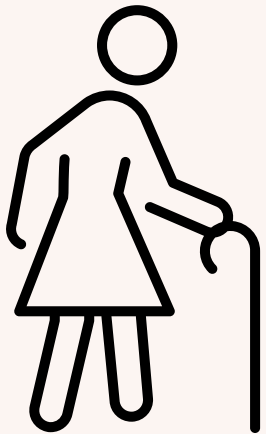
人口の推移からみた課題

## 家族の形と暮らし方の変化



- 住まいの確保
- 家族介護者不在と家族支援
- 介護離職
- 一人暮らし高齢者の支援
- 8050問題

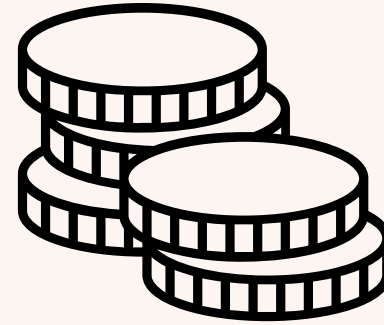
## 介護の担い手の不足



- 介護人材の確保・育成・定着
- 介護労働者のストレス、働き甲斐、働き方改革
- 外国人労働者
- ICT化

# 高齢社会がもたらす課題

## 社会保障制度の持続可能性



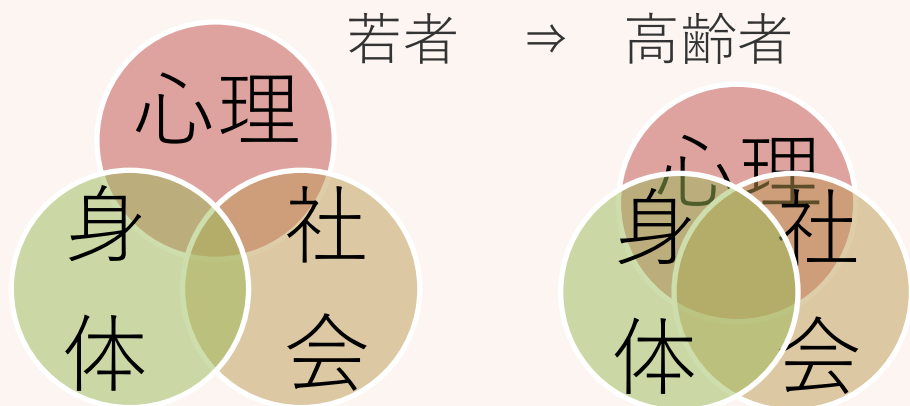
- 財源の確保
- 医療介護連携
- 医療介護一体改革
- 地域包括ケアシステムの構築

## 認知症



- 認知症基本法
  - 共生社会
  - 新しい認知症観
  - 本人の社会参加
- 抗認知症薬の開発と認知症の診断

心と身体、社会活動の  
強い結びつき



同時処理／スピードは苦手  
身体で覚えた技・動作は維持

- 手続き記憶の維持
- 結晶性知能の維持・向上
- ライフレビューによるQOL向上

## 高齢期の心理学的特徴

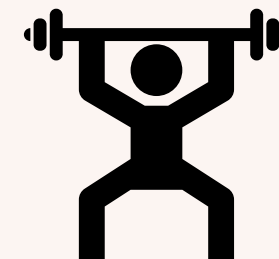
情動・感情状態の快適さを  
優先して活動する

- 社会情動的選択性理論
  - 冒険よりも快適さ・安心を優先して行動を選択

個人差の拡大



同じ  
75歳でも



3人の登壇者から  
話題提供をいただきます



登壇者② 前期課程 関根正良さん

Topic  
認知行動療法と高齢社会

# 高齢社会をどう乗り切るか

登壇者① 後期課程 小林雅津良さん

Topic  
拘禁刑下における  
福祉的対応が必要な  
高齢・障害受刑者への  
処遇方法の研究

登壇者③ 前期課程 春日郁代さん

Topic  
美容ビジネスにおける  
高齢者顧客とのコミュニケーショ  
ン

# 拘禁刑下における福祉的対応が必要な高齢・障害受刑者への処遇方法の研究

キーワード：高齢者・障害・心理・福祉の司法化

## 1 高齢・障害受刑者の現状

加齢や障害により、説明の理解、意思表示、作業や集団生活に支援が必要な人がいます。

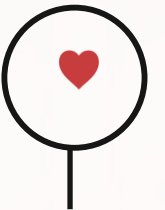
「できない」と決めつけず、その人に合う方法を考えることが出発点です。



## 2 心理への着目

障害特性、不安・孤立・失敗体験による自信の低下にも目を向けます。

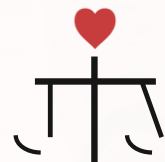
対話や「できた」という経験が、安心感や自己効力感を支える可能性を考えます。



## 3 福祉の司法化

高齢・障害・生活課題への対応が、福祉だけでなく刑事司法の中でも求められています。

安全・規律と、一人ひとりに応じた支援をどう両立するかを研究します。



## 4 展望について

刑務官と医療・福祉専門職が理解を共有し、日々の処遇に生かす。

施設内の安定から、出所後の地域生活へつながる処遇方法を示すことを目指します。



# 高齢社会の課題を“誰に対する心理的支援か”で見る

認知行動療法(CBT)を軸にした大学院での学び | 高齢者本人と支援者への介入を切り分ける

総合社会情報研究科 北村研究室 人間科学専攻 修士課程1年 関根 正良

## 高齢社会の課題を、本人と支援者に生じる「心理・行動の変化」として捉える

### 社会課題(背景)

**家族と暮らし** 独居・孤立・生活不安

**社会保障** 医療・介護資源の制約

**介護の担い手** 負担集中・疲弊

**認知症と参加** 共生・偏見・孤立予防

### CBTの見方

#### CBT＝「つながり」を見る

出来事 → 認知 → 感情 → 行動 → 結果

何が起き、どう受け止め、どう行動したか

### 事例

#### A 高齢者本人

転倒不安 → 外出回避  
経験減少 → 自信低下

支援: 小さな成功経験・社会参加

#### B 支援する人

「全部自分が」→ 抱え込み  
相談回避 → 疲弊

支援: 援助要請・役割整理・セルフケア

共通するCBTの視点: 考え方だけでなく、行動と結果のつながりを見て、次の一步を支える

大学院の学び: 同じCBTでも「誰に対する支援か」を切り分け、社会課題を具体的な支援へつなぐ

# 高齢社会を、 「可能性」から考えてみる

- ・CIDESCO認定  
インターナショナルエステティシャン
  - ・自身のプロデュース商品の世界展開
- 40年以上に渡る、  
国際ビューティービジネスの知見から

高齢社会

課題だけで  
捉えない



アクティブシニア

働く・学ぶ・  
人とつながる



Beauty &  
Wellness

QOL向上  
前向きな気持ち

「若く見せる」ためだけではなく、  
自分らしく、生き生きと活動するための美容へ。

65～69歳の就業率 54.5%

社会活動参加者の84.6%が  
「生きがいを感じる」

# ちょっとだけ、宣伝させていただきます。

大学院で学びながら、こんな本も書きました。

## 『この老い、はじめてだから 60代、うまく生きる32のこと』

春日 郁代 著 | 徳間書店 | 2026年6月

髪・肌・美容

健康・ウェルネス

60代からの「自分らしい生き方」

年齢を重ねることを、  
「失うこと」だけで考えない。

美容・健康・暮らしを通して、  
これからの毎日を心地よく楽しむための一冊です。





# 2026オープン大学院 シンポジウム セクション3

## テーマ3

変化する国際情勢の中で、日本・  
日本人に求められていることを再  
認識する

# 最近10年の大きな国際情勢の変化 (BY GEMINI)

1. 英国のEU離脱（ブレグジット）と欧州の再編（2016年～2020年）
2. 米中対立の激化と「自由で開かれたインド太平洋」（2017年～）
3. 中東情勢の再激化とシーレーン・エネルギー危機の深刻化（2018年～）
4. 米軍のアフガニスタン撤退とタリバンの復権（2021年）
5. 新型コロナウイルス（COVID-19）世界的大流行（2020年～）
6. ロシアによるウクライナ侵略と力による現状変更（2014年クリミア併合～2022年全面侵攻）
7. 自国優先主義・ポピュリズムの世界的定着（2016年～）
8. グローバルサウス（新興・発展途上国）の台頭とBRICS拡大（2023年～2024年）
9. 脱炭素（GX）・エネルギー移行を巡る地政学（2015年パリ協定～）
10. 生成AIの登場と先端技術・サプライチェーンのブロック化（2022年～）

# 激変する国際情勢のもと、 日本に何が期待されているか

| 報告者                   | 主要テーマ                                      |
|-----------------------|--------------------------------------------|
| 岡 豊樹さん<br>(国際情報・修了生)  | 激動する国際情勢のなかで、アジア（中国・インド・アセアン）は日本に何を期待しているか |
| 上林 彰仁さん<br>(文化情報・修了生) | 日本に避難してくる外国人に対して、何ができるのか。多様な日本語教育スタイルの紹介   |
| 野口 哲也さん<br>(国際情報・修了生) | 国際紛争の現場では何が起きているか、日本・日本人にどのような問題が起きているか    |

## 26.10.3 オープン大学院 シンポジウムテーマ「国際」 岡 豊樹

### 「アジア（中国・インド・アセアン）は日本に何を期待しているか」

1. アジア情勢の変化：先端技術開発とサプライチェーンの多様化
2. 米中、アジア（中国・ASEAN・インド）それぞれの立ち位置
3. 日本への期待：技術、価値観、相互経済補完の領域確認  
どの製品で、どの市場で、どのサプライチェーンで、どのチャネルで

◎ まだまだ期待される事業、分野は少なくない筈・・・

# 2030年を見越したグローバル市場（中、印、ASEAN、日本）の動き

## インド 2030

— グローバル成長の中心地

戦略的コネクター、グローバルリーダー

- 2030年までに世界第3位の経済規模
- 若く熟練した革新的な労働力
- 先端技術イノベーションエコシステム (R&D、スタートアップ、ディープテック)
- 世界の製造拠点
- 信頼されるパートナー



- GCCモデルの輸出
- R&D・標準化ハブ
- グローバル市場拡大

## 4つの流れ

A B C D



- 自動車部品 (Tier 2-4)
- 家電 (小米、OPPO)
- インフラモデル



- 戦略的パートナーシップ (FOIP)
- ¥ 2兆円投資
- ICT・半導体



- 直接投資 (FDI) +25%成長
- IT/BPO & 電子機器



### インド2030ビジョン

- 製造・才能のハブ
- 持続可能な成長
- 包摂的な世界。

ヴィクシット・バラット (先進的インド) によるグローバルインパクト

### 成長を支える基盤 (エンabler)

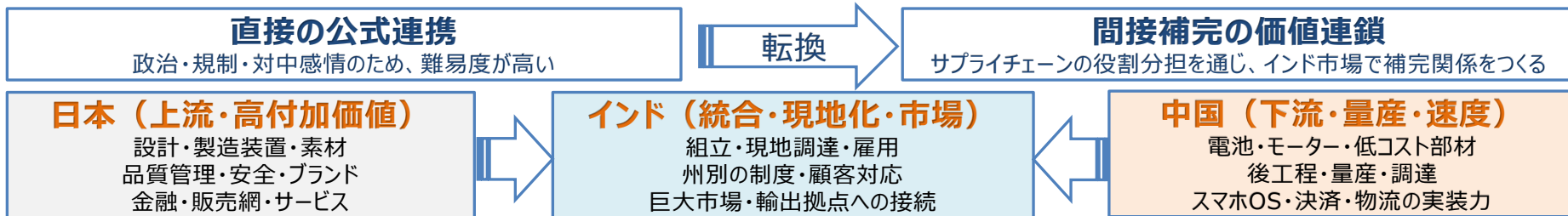
- 政策の安定と改革
- 世界水準のインフラ
- 安価でクリーンなエネルギー
- 人材・スキル優位性
- デジタル公共インフラ (DPI)
- 強固なグローバル連携

出所：Source IMF Projections 2023より機構作成

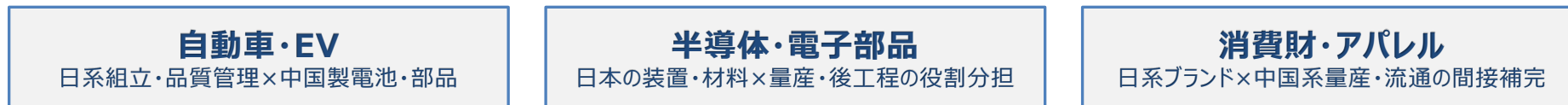
# 日本企業への期待はどこにあるかの考察（戦略仮説から抜粋）

## 仮説4 「日中がインドで連携できる分野はあるか」

### 公式連携を求めず、価値連鎖で補完



### 補完が成立しやすい領域



### 【分野別の日中補完・連携可能性（ヒアリングベース）】

| 分野        | 日本の強み・役割                      | 中国の強み・役割             | 連携形態                     |
|-----------|-------------------------------|----------------------|--------------------------|
| 自動車・EV    | 設計・品質管理・ハイブリッド技術・販売網（マルチスズキ等） | EV電池・モーター・部品の低コスト供給  | 中国製電池×日系組立工場モデル（間接補完）    |
| 半導体・電子部品  | 製造装置・材料・パワー半導体の高精度品           | 後工程（OSAT）・低コスト量産     | 川上（日本）×川下（中国）の役割分担       |
| IT・デジタル   | エンタープライズIT・品質保証・金融DX          | スマホOS・決済・アプリ基盤の普及モデル | インド市場でのエコシステム間の顧客獲得競争が中心 |
| アパレル・消費財  | 素材・高品質OEM・ブランド展開              | 低コスト量産・流通網のノウハウ      | 日系ブランド×中国系製造委託（間接補完）     |
| インフラ・製造設備 | 精密工作機械・FA設備                   | 大型建設機械・低価格機器         | 異なるセグメントでの並存             |

示唆：中国勢と同じ土俵で競わず、中国製品の流通・普及の「上位レイヤー」を日本企業が補完

# 大学院在学中に海外移住：日本語教師は世界の変化を肌で感じられる仕事

上林 彰仁 2024年3月 博士前期課程（文化情報専攻）修了

## 話題1 オンラインの教室で

### 日本で、そして海外からも

- ・ 日本在住ウクライナ避難民へのオンライン日本語学習支援ボランティア
  - ⇒ 日本から、そしてクロアチアから、約2年半
  - ⇒ 日本語・日本文化を教えるだけでなく  
避難民の方々との「接し方」を学ぶ
- ・ クロアチア在住の避難民学生にも日本語を
  - ⇒ オンライン支援で蓄えた実践知が、学校でも生きる

国際情勢の変化は  
日本語教育の現場ともリンクしている

## 話題2 移住後のクロアチアで

### 「日本で留学／就職」だけの日本語ではない

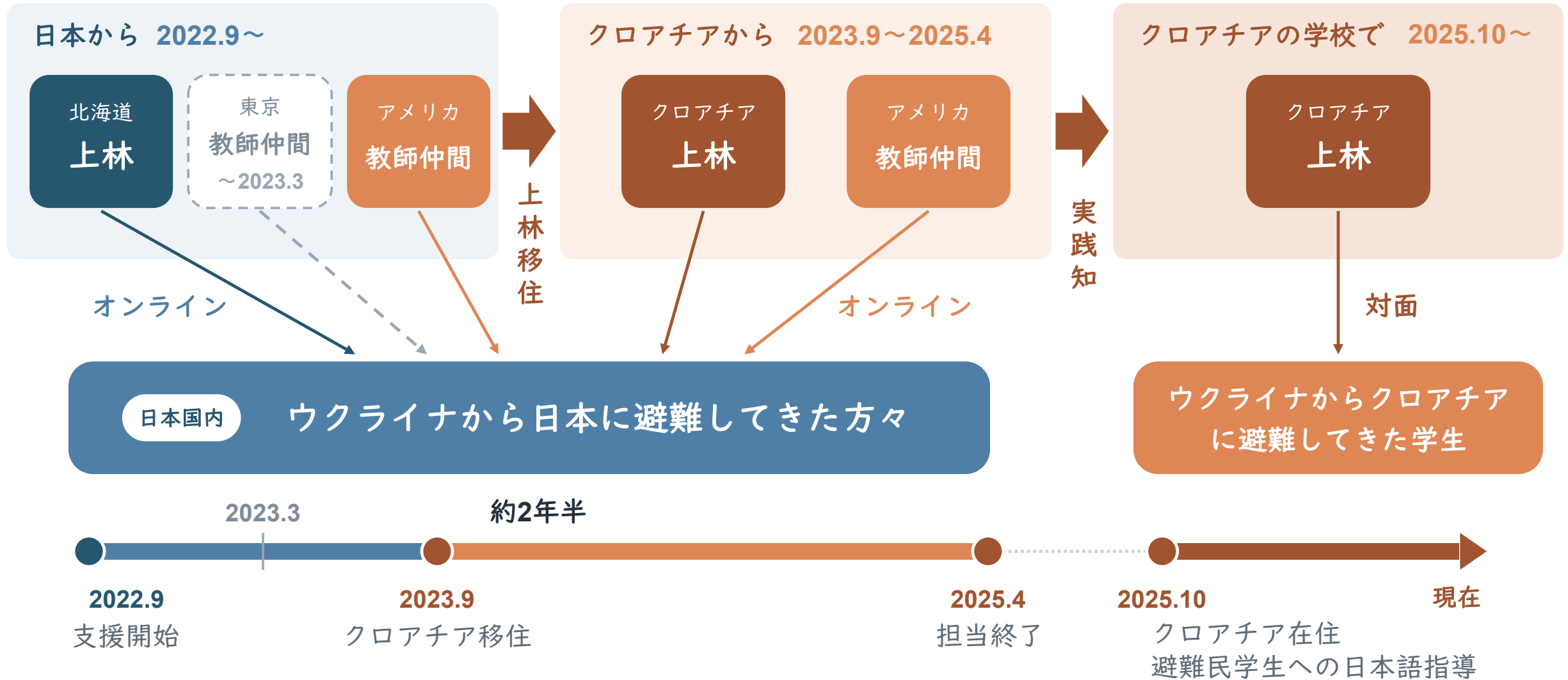
- ・ 例1. バイトを頑張る私の学生たち
- ・ 例2. 関西弁ワークショップ
  - （言語フェスティバル2026 [Festival Jezika 2026] 9月25日）
  - ⇒ 中学生～50代まで、30名以上が参加
  - ⇒ 「共通語と関西弁はぜんぜん違う」「中国語みたい！」  
「関西人と出会ったら？」—言語の響き自体を楽しむ—
- ・ 例3. 日本学・日本語を学ぶ学生がイベントの主役に
  - ⇒ 学んだことを生かし、学外の日本ファンとつながる
  - ⇒ 人前で伝えられた経験が「自信」に

人々が日本語・日本文化に求めるもの  
＝ 精神的な満足

# 日本を離れた後も、ウクライナ避難民に 日本語学習を支援

● 日本国内

● 日本国外



教師が暮らす場所が変わっても、学習者とのつながりは途切れなかった。

# 激変する国際情勢と現場の現実 —— 実務の最前線から見た課題



原油輸送・エネルギー資源調達の現場最前線

Source: [www.supplychainbrain.com](http://www.supplychainbrain.com)

## 🌐 多極化と分断の常態化

- 地政学リスクの直撃: サプライチェーン分断の日常化
- 経験則の機能不全: 過去の成功パターンの限界

## 🔄 日本と日本企業に求められる転換

- 受動的対応の脱却: 単なる情報追従からの卒業
- 戦略的自律性: 構造変化を先読みする構想力

報告者：野口 哲也（商社・エネルギー実務経験 × 国際関係研究）

# 現場の課題を複眼で見抜く ― 政治・経済・歴史・経営・データの統合

## 理論の土台

国際政治 × 経済理論

極構造の転換と市場メカニズム

## 時間軸と地域の深層

地域研究 × 歴史的知見

歴史的経緯と地域固有の社会動態

## 実務への実装・判断

経営 × データ × 地理ロジ

エコノミスト分析と現地サプライチェーン

## 【実体験のエピソード】 駐在現場での強烈な問いが、学位論文研究へ直結

実務課題 × 学術探究の結実

### 修士論文 2010-15年 香港駐在

現場の遭遇：雨傘運動に直面し、統治構造の劇的な転換を目撃  
研究への昇華：歴史的・制度的文脈から「一国二制度の限界」を解明

### 博士論文 2017-21年 イラン駐在

現場の遭遇：米国の制裁強化がもたらす貿易・金融の窒息を体感  
研究への昇華：「極構造の変化と経済制裁の有効性」を構造的に分析

現場で抱いた「なぜ」という問いこそが、大学院で深めるべき最大の武器になる

# フリーディスカッション～ラップアップ

- フロアとの質疑応答
- 陸先生，島田先生，北村先生のまとめ
- 最終総括（加藤）



# ありがとうございます

日本大学大学院総合社会情報研究科

オープン大学院実行委員会

日本大学通信教育部（大学院係）

電話番号 03-5275-8277

E-mail [gssc.jimu@nihon-u.ac.jp](mailto:gssc.jimu@nihon-u.ac.jp)

<https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/>